

学校法人 高田学苑
高田短期大学育児文化研究センターだより

IKUBUN NEWS

第4号 2006.6.15

発行 高田短期大学育児文化研究センター
〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195
TEL 059(232)2310(代表) FAX059(232)6317

地域の育児文化センターとして

昨今、日本の各地で幼い子どもの命をもてあそぶ事件が続発して、いったい、この日本という国はどうなっているんだろう?と思うこと仕切りです。1994年に、日本も遅まきながら(世界で158番目に)『子どもの権利条約』を批准したことは記憶に新しい。この条約の第一部には、差別の廃止、子どもの最善の利益、生命・生存・発達、子どもの意見の尊重という4つの一般原則が示されています。

なんとと言っても、子ども自身の生命・生存の権利が保障されなければ、そのほかのあらゆる権利の実現はできない。では、子ども自身の生命・生存を保障するのは誰か?もちろん、その第一は両親であり家庭である。そして、子どもにかかわるすべての大人である。その大人たちによる児童虐待がどんどん増加している。これも、少子化問題と同様に、歯止めが利かない状況の一つです。

大人がゆっくり子どもにかかわれない、大人が子どものいる生活を楽しめない、そういう追い詰められた日本社会、本当にどうにかしたいものです。私事で恐縮ですが、5月にドイツのベルリンへ行ってきました。午後の3時過ぎには仕事を終えて、子どもを児童センターや保育所へ迎えに行く親の姿がありました。その後、家庭で子どもと一緒に過ごせるのです。児童センターでの親子のゆったりとしたかわりの姿を見て、うらやましく思えました。日本の親はなんと忙しく保育所へ子どもを迎えに行かなければならないのだろう!久々のベルリンでしたが、大人と子どもの時間がゆったり流れているさまに、日本の子育て事情との大きな違いを感じました。このゆったりした時間を、子育て中の親子に取り戻してあげたい、子どもと付き合うことが心から楽しいこと感じられる環境と場を、育児文化研究センターでも、微力ですが提供していきたいと、18年度も、いろいろな企画を立てました。地域の方々が気軽に参加して下さることを願っています。あわせて昨年同様、出前講座もおこないますのでどうぞ活用ください。

育児文化研究センター長 豊田和子

- ・ 地域の育児文化研究センターとして : 1頁
- ・ 平成十八年度総会報告 : 1頁
- ・ 組織・研究員 : 1頁
- ・ 平成十八年度事業 : 2頁
- ・ 子どもとともに学ぶ環境づくり : 2頁
- ・ 実践的環境教育の適用 : 3頁
- ・ 朴 恵淑 : 3頁
- ・ 定例研究会報告 : 4頁
- ・ 平成十八年度出前講座 : 4頁
- ・ 研究員の活動紹介 : 5頁
- ・ 新入会研究員・客員研究員の紹介 : 5頁
- ・ 問い合わせ・アクセス : 6頁



CONTENT

子どもの「未来」を育む地域支援プロジェクト事業

0・1・2歳児のための「あそびひろば」

あそびにおいてよ! 0歳児さん

日時: 平成18年7月29日(土) 10月14日(土) 12月2日(土)
いずれも時間は: 10:00-11:30
場所: 高田短期大学 育児文化室(1号館2階です)
対象: 0歳児子育て中の人(妊婦の方もどうぞ)
参加費: 500円(大人一人) お子様無料
講師: 柳 美保さん(高田短期大学教員・乳児保育) 今宮久美さん(くみ助産院)
内容: あいさつ、あそび、あそびの楽しさを伝える、子育ての悩み、育児相談 など

あそびにおいてよ! 1・2歳児さん

日時: 平成18年7月1日(土) 9月9日(土) 11月18日(土)
いずれも時間は: 10:00-11:30
場所: 高田短期大学 育児文化室(1号館2階です)
対象: 1・2歳児子育て中の人(妊婦の方もどうぞ)
参加費: 400円(大人一人) お子様無料
講師: 柳西陽子(高田短期大学教員・幼児保育) 柳西陽子(高田短期大学教員・幼児保育)
内容: うた、おどって、あそぼう! 創作活動(七夕飾り・折り紙遊び・クリスマスの飾りなど) 育児相談 など

お申し込み先: 高田短期大学育児文化研究センター
TEL: 059(232)4317
E-mail: ikubun@shu.ac.jp
開催日: 氏名・連絡先・参加人数(大人・子ども)を明記して
fax: 〒514-0115 津市一身田豊野195にまでお申し込み下さい。先着の各程度とさせていただきます。

開催場所: 059(232)2310 育児文化研究センター 研究員 様まで

*申し込みされた日に開催できない個人情報は、センター事業のご案内以外には使用いたしません。

主催: 高田短期大学育児文化研究センター

高田短期大学育児文化研究センター 平成18年度総会(5月12日)概要

平成17年度事業報告<平成17年4月～平成18年3月分の実績>

- (1) 運営委員会(9回開催)
 - (2) 育児文化研究センター総会(5/6)
 - (3) 出前講座(48件)
 - (4) 定例研究会(7回開催)
 - (5) 育児文化研究センターだより「IKUBUN NEWS」(6月・2月と2回発行)
 - (6) 紀要『高田短期大学育児文化研究』(3月創刊号発行)
 - (7) 育児文化研究センターホームページ
 - (8) 「生きる力」をはぐくむ子育て支援プロジェクト事業
 - ・「クッキング保育」(6/10) ・親子で『玄米菜食』料理に挑戦!(10/8 10/22 2回開催)
 - ・「0・1・2歳児のための『子どもひろば』」(7/2 7/30 9/3 10/1 11/5 12/10 6回開催)
 - ・「子どもの『生きる力』を支援する学童保育指導員のためのセミナー」(7/9)
 - ・「観て・感じて・やってみよう!」(7/31) ・「うたって・おどって・遊ぼう!」(1/28)
 - ・「メディアの取り扱いと情報発信のあり方について～家族のホームページ制作～」(8/23～26)
 - ・「馬とふれあう親子フェスタ」(11/23)
 - ・「やさしいWord講座 文書作成と年賀状」(12/17)
 - ・「ひさいっ子フェスタ in 2005(三重県平成17年度ささえあいくらぶモデル事業)」(11/27)
- 詳細は、ホームページ(高田短期大学>育児文化研究センター>活動内容)をご覧ください。

平成18年度事業計画<平成18年4月～平成19年3月>

- (1) センター総会 5月12日(金)16:30～
 - (2) 0・1・2歳児のための「子どもひろば」0歳児(7/29 10/14 12/2) 1歳児(7/1 9/9 11/18)
 - (3) 楽しくおいしい親子クッキング 8月
 - (4) 親子で製作オリジナルTシャツ 8月
 - (5) 親子で楽しむかんたんワークショップ(自然の恵みパウチ作り) 11月11日(土)
 - (6) 馬とふれあう親子フェスタ 11月23日(祝)
 - (7) ふれあいあそび実技講習 11月
 - (8) 保育者のためのパソコン教室 12月
 - (9) 子どもパソコン教室 6月～1月まで(5回)
 - (10) アロマ・ベビーマッサージの実技講座 9/2 9/16 10/7 10/21 11/4 11/11(土曜午前中)
 - (11) 子育て電話相談 随時
 - (12) 定例研究会 年間6回開催
 - (13) 育児文化研究センターだより「IKUBUN NEWS」年間2回発行(6月・2月)
 - (14) 紀要『高田短期大学育児文化研究』第2号 3月
 - (15) 出前講座 随時 等
- (注)(2)～(8)平成18年度重点事業 子どもの「未来」を育む地域支援プロジェクト事業 (9)(10)は共催事業

平成18年度運営委員

豊田和子(育児文化研究センター長) 武川真固 梶美保 望木郁代

平成18年度組織

センター長	豊田和子(子ども学科 教授)
研究員	市田敏之、植木存、梶美保、栗原廣海、榊原尉津子、武川真固、千草篤磨、豊田和子、内藤由佳子、福西朋子、三宅啓子、望木郁代、山本敦子、わけびき真澄、鷲尾敦(以上、本学専任教員)
客員研究員	安藤はるみ、池上綾子、糸川京子、今吉久美、岩附啓子、大蔵香代子、川喜田多佳子、川村きみ子、北端一子、浦中浩一、駒田聡子、ダイクス京子、鈴木照美、田口鉄久、田中厚好、豊田ひさき、朴恵淑、橋本景子
顧問	櫻井實(三重大学名誉教授、医学博士) 谷岡経津子(四日市大学総合政策学部教授) 太田和子(前三重県国公立幼稚園長会会長、四日市市立楠北幼稚園長)

総会特別講演 子どもとともに学ぶ環境づくりー実践的環境教育の適用

講師 三重大学人文学部教授 朴 恵淑 先生

平成 18 年 5 月 12 日(金) 平成 18 年度の総会后 17:00 より 18:30 分まで三重大学人文学部教授の朴恵淑先生による「子どもとともに学ぶ環境づくり」特別講演がありました。講演は、地球規模の環境問題から、東海地方の環境汚染、さらには高田短期大学学生の環境学習、そして小学生の環境づくりの実践など、興味深い内容でした。内容の一部を紹介します。

三重県の環境教育基本方針

2006 年に改訂された「三重県環境保全活動・環境教育基本方針」環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に関する基本的な方向
・主体をつなぐ

県民・NPO・地域の団体・学校・企業・市町村・県など多くの主体の連携・協働を充実させ、主体をつなぐ上で重要な環境教育の指導者の活躍の場や、地域のコーディネーター不足を解消する。

・場をつなぐ

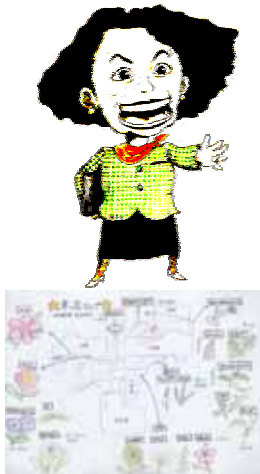
三重県環境情報センターが拠点となって様々な取り組みや情報が発信されているが、市町村や企業が行っている他の学習拠点は、拠点の機能を十分に果たしていないところが多い。拠点の機能と地域の取り組みを総合的につなぐ横のつながりを強化していく必要がある。

・施策をつなぐ

三重県が誇る豊かな自然環境や歴史的遺産を守りながら、持続可能な社会を目指して、環境行政と教育行政など環境と他の施策をつなぐ。

・気づきから活動へつなぐ

学習者を実践者につなぐ、直接的な活動になるようにするため、各主体の連携・協働により、場や施策をつないでいくことや環境教育を通じて学習し、関心や気づきを持った学習者が、環境保全のための活動にかかわる実践者となることのできる観点からみた基本方針を示す。



高田短期大学
身近な環境調査
(自然環境+生活環境)2005年5月12日

高田短期大学における「環境教育」の授業

本授業は、地球・地域の環境問題の本質とは何か、その解決に向けて環境教育はどのように取り組むべきか、我々は何をすべきかについて考え、子供への環境教育のあり方を自ら探る実践型・体験型授業を行うことを目的とする。

まず、地球規模の環境問題として地球温暖化問題を取りあげ、科学的知見、生態系への影響、環境政策、環境教育への取組の側面から地球温暖化問題の本質を探る 問題解決型授業+講義。次に、地域の環境問題として大気汚染問題を取りあげ、四日市公害問題の過去・現在・未来、アジアの越境性大気汚染問題や酸性雨、黄砂問題、学際的・総合環境学としての四日市学の目指すもの、大気汚染の実測を通じた環境教育の取組を探る 問題解決型+体験型授業+講義。さらに、身近な環境問題としてごみ問題を取りあげ、ごみ問題の本質、ライフスタイルの改革及び課題、環境教育の取組について調べる体験型授業。最後に、地球・地域・身近な環境問題の本質や我々の役割について、子供への環境教育のあり方について実践的な取り組みを行い、総合的に考察する問題解決型+体験型授業+講義。

学校の環境教育の現状

学校における環境教育に対して、「総合的な学習の時間」が取り入れられた。これは、知識ばかりを詰め込む画一的な教育ではなく、問題解決能力を身に付けるような学習が重要であるという提言から、1998年教育課程審議会の答申において設けられたものである。1) 地域や学校、子どもたちの実態に応じ、学校が創意工夫を生かして特色ある教育活動が行える時間、2) 国際理解、情報、環境、福祉・健康など従来の教科をまたがるような課題に関する学習を行える時間、として、子どもたちが各教科等の学習で得た個々の知識を結び付け、総合的に働かせることができるようにすることを目指している。この総合的な学習の時間は、1998年の小・中学校学習指導要領、1999年の高等学校学習指導要領に取り入れられた。学校と地域が協力して、周辺の自然環境や資源を生かした学習が進められているが、担当教諭の熱意により、その内容に差があるのが現状である。



小学校における大気汚染測定調査

<ご多忙の中、大変スケールの大きな、しかし身近な環境問題のお話をしていただきありがとうございました。満場拍手>

定例研究会報告（第10回）

平成18年1月10日（火）16:30～18:00に高田短期大学第4会議室にて梶美保・榊原尉津子両研究員が「育児文化研究センターにおける子育て支援の取り組み」のテーマで『0・1・2歳児のための“子どもひろば”の事業紹介と考察』をレポートしました。2005年度に取り組んだ6回の講座内容をパワーポイントと資料に基づいて紹介し、併せて評価・考察・今後への課題も報告しました。ここでは、その一部を紹介します。

「子どもひろば」とは…

育児文化研究センターの「平成17年度重点取り組み 子どもの『生きる力』をはぐくむ子育て支援プロジェクト事業」の一つであり、「安心して、楽しく子育て」をキーワードに、子育て中の親を対象に、0歳児と1・2歳児に分けて、各3回、計6回の講座を開催しました。その内容は、ベビーマッサージ、親子で運動遊び、リズム遊び、製作活動で、親と子のふれ合いを通して楽しい時間をすごしてもらい、より一層親子の絆を深めてもらうことをねらいとしています。

内容

7/30開催の「遊びにおいでよ!0歳児さん」

- ・ 赤ちゃんとのふれ合い遊び
- ・ 授乳ライフを楽しむコツ
～おしゃれな授乳服&夏の授乳を快適に過ごす～
- ・ ためになる母乳の話その(1)
- ・ だっこ法について
- ・ ベビーマッサージ
- ・ 育児相談



11/5開催の「遊びにおいでよ!1・2歳児さん」

- ・ うたあそび
- ・ 「からだ」One Point アドバイス
～1・2歳児の生活習慣～
- ・ 楽器あそび「山の音楽家」
- ・ つくって うたって あそびましょう
～音のでるおもちゃづくりと歌遊び～
- ・ 育児相談 ～パパ・ママ SOS!



参加者の意見・感想と参加者数

<0歳児参加者の意見・感想>

- ・ 講座の回数を増やして欲しい(5)
- ・ 非常に勉強になった(2)
- ・ 部屋が清潔で広く安心した
- ・ ためになる話ばかりだったので子どもが低月齢児の時に聞けたらよかった
- ・ もう少しじっくり話を聞きたかった
- ・ 下の子がマッサージの時に、上の子と遊んでくれた学生さんありがとう
- ・ ボランティアの対応がよかった
- ・ 講師主体だったので残念だった休憩が欲しかった
- ・ ベビーマッサージは丁寧に指導して欲しかった

<1・2歳児参加者の意見・感想>

- ・ 頻繁にこのような機会を増やしてほしい(3)
- ・ また参加するので、連絡ください(2)
- ・ イベントとして面白く、すてきなおもちゃが多くて子どもたちがとても楽しめた(2)
- ・ 月1回ぐらいで講座開催してほしい
- ・ ちょうどいい講座時間であった
- ・ スタッフの人数が多く、子どもをみてくれて助かった
- ・ やることが多くて、ちょっと忙しかった
- ・ 始まりが遅くなった

<参加者数と年齢構成>

	1回目	2回目	3回目	計
	7月2日	9月3日	11月5日	
親子	18組	16組	17組	51組
大人	18名	16名	17名	51名
子ども	23名	22名	22名	67名
計	41名	38名	39名	118名
月齢詳細	1歳児(15) 2歳児(6) 3・5歳児(各1)	10か月(1) 1歳児(11) 2歳児(6) 3・4歳児(各2)	1歳児(14) 2歳児(5) 3・5歳児(各1)	

課題・展望

アンケートや生の声で毎月開催してほしい、という意見を多く頂いた。これについては、育児文化研究センターの体制や運営費とも関係するので早急には実現できないが今後検討していくべき問題。・参加者の増加を広域の形ではかる一方でベビーマッサージの手技のように何回か続けて講座を持ちたいようなものがある。前者については広報のあり方などを検討していき、後者については、独立した別の講座として開講を考えたい。また、父親の参加も呼びかけていきたい。内容については、初めてということで盛りだくさんになってしまった感がある。内容を精選し、楽しい育児文化室の備品を活用して自由に遊ぶ時間や育児相談の時間を増加する必要がある。学生ボランティアの力量の問題であるが、学生ボランティアは、保育者養成校として、学生自身の成長を促進してもらうために多くの学生に経験してもらいたいと考えるが、参加者や客員研究員にとっては、そのときの学生の力量に差があることによって不満が出ることもあるかもしれない。これは、事前指導のあり方によって改善していくことが可能であり、学生ボランティアの数を増員することも考えたい。総じて多くの参加者とふれ合い学ぶことができた今回の事業からの学びを今後センターとして地域の子育て支援を進めていくにあたって生かしていきたい。



平成18年度出前講座のご案内

地域貢献事業の一つとして、県内各地の研修会や学習会などの出前講座や講師派遣に応じます。平成18年4月～平成19年3月分の企画は以下のとおりです。ご活用ください。 お問い合わせ先 高田短期大学育児文化研究センター .059 - 232 - 2310 (内線 123) <電話応需時間 月曜日と木曜日の9:00 - 17:00> メールアドレス ikubun@takada-jc.ac.jp

No.	講座内容(テーマ)	(内 容)	(対 象)	氏 名	担当時期	担当地域
1	幼い子どもの発達と大人のかかわり	乳幼児の心の発達と、それに合った大人のかかわり方について学習します。	家庭教育教室、子育て支援団体	豊田和子	要相談	県内全域
2	子どもの見方と保育者の援助について	遊びの中で、あるいは生活場面での一人ひとりの子どものとらえ方と、見過しのある保育者の援助について学習します。	幼稚園、保育園の職員			
3	幼児のリトミックあそび	「幼児の身近な事象や経験をテーマにしたリトミック遊び」の体験と教育方法	幼稚園・保育園(所)の職員	三宅啓子	要相談	県内全域
4	子どもの歌あそび	楽しいコミュニケーションと表現遊びの体験学習	幼児教育関係者・幼児及びその親			
5	障害児保育について	各種障害の理解、発達段階に応じた保育 等	保育関係者、保護者	千草篤磨	土曜・日曜・休日	北勢・中勢・南勢
6	子どもの人権と児童虐待	子どもの最近の状況と社会情景を把握しつつ、子どもの権利条約・人権宣言をふまえて、児童虐待及び体罰を考えたその救済方法を探ってみる。	保育関係者・保護者	武川真由	土曜日(要相談)	北勢・中勢地区
7	憲法のこころと子どもの人権	日本国憲法のこころ(精神)をわかりやすく読め、憲法がめざす子ども観を考え、子どもの人権の現状をふまえて、なぜ子どもの最善の利益が優先され、保護されなければならないのかを考えてみる。			土・日曜日(要相談)	
8	電子絵本作り	子どもが楽しめるマルチメディア電子絵本の制作の方法について学び、簡単な作品を作る。	幼稚園・保育園等の関係者	繁尾 敦	要相談	中勢・北勢地区を中心に
9	園のホームページ制作	題材を園の情報発信として、ホームページの制作方法から公開までの知識と技術を学ぶ。				
10	子どもパソコン教室	発達段階に応じた子ども向けのパソコン体験教室。基本的に何かを制作することを通して、コンピュータリテラシーを身につける。	小学生低学年、高学年、中学生			
11	仏教の根本理念と保育	あらゆるいのちの平等を知り、お互いに慈しみ悲しみ合っていかなければならないということの核を教え、保育の根本精神は「縁起」にあることを伝えたい。	保育関係者、保護者	栗原廣海	水曜日(都合が悪い日有り)・火曜・木曜の午後(あまり遠くない場所)	北勢・中勢・南勢
12	保育と観察(かんざつ)	人間のものの見方、考え方の問題点を明らかにし、子どもを見る目について考えたい。	保育者、保護者			
13	拝むということと祈るということ	「ののさま」に子どもと共に手を合わせ拝むことの意味を、「お祈り」と比較して考えたい。	保育者、保護者			
14	0・1・2歳児の発達と子育て、保育	0・1・2歳児の発達のすじみちと、具体的な子育ての技術、大切にしたい子育てのポイント等。	保育者、保護者	梶 美保	要相談	県内全域
15	乳幼児の事故予防	乳幼児の事故の実態とその予防、具体的な応急処置(心肺蘇生法など)等。	保護者、一般			
16	赤ちゃんとはげつくりとベビーマッサージ	乳児へのかかわりとして大切なことの話とベビーマッサージ	保護者、一般			
17	知的障害(児)者とその家族への相談援助	障害者の福祉サービスにかかる保護の実施主体が市町村に移されたが、当事者の思いや願いに向かい合う相談支援の体制づくりの課題の達成は急務である。相談支援の職員を養成することも又大事な課題である。	市町村障害福祉関係職員、民生委員、児童委員など	植木 存	要相談	要相談
18	子育て不安と子育て支援	子育て不安の社会的広がりや現代の家族問題を福祉の視点から見るとともに子どもの背後にある親の生活の全体性を理解しながら子どもの最善の利益について考える。	市町村保育担当者、保育所関係者、民生委員、児童委員など			
19	親子で楽しむ ふれあいあそび	家でできるふれあいあそびを楽しみましょう。	幼児とその保護者	榎原静子	要相談	県内全域
20	親子で楽しむふれあい歌あそびとミニコンサート	歌あそびを通して親子でふれあったり、生の音楽を聴いたりして、楽しい時間を過ごしましょう。	幼児とその保護者(20組程度)	福西朋子 山本敦子	8月、9月、2月、3月の平日(要相談)	中勢地区
21	家庭の日常生活に於ける子育て	幼児をとりまく環境とその問題点を踏まえ、今、求められている子育てについて。	乳幼児をもつ母親、父親	池上綾子	火曜日か水曜日	中勢を中心に
22	集団生活としての幼児教育・その具体的実践	幼児をとりまく環境とその問題点を踏まえ、今、求められている保育園・幼稚園における教育について。	保育者全般			
23	子どもと共に創り上げる保育	今の子どもたちには躍動感あふれる体験が必要、ドキドキワクワク、おもしろさを追求した保育実践。	幼稚園教諭、保育士	岩附啓子	要相談	要相談
24	私の出会った絵本	絵本は何を物語っているか、絵本と文から絵本の魅力を探る。	幼稚園教諭、保育士			
25	英語コミュニケーションの基礎	歌やチャンツを通して、英語のリズムに慣れる。ゲームとジェスチャーで英語コミュニケーションを図る。1行～3行会話でコミュニケーション。	小・中学生	大蔵晋代子	平日午後	県内全域
26	家庭でのしつけ	親と子のかかわりについて。	乳幼児をもつ保護者	川村きみ子	要相談	北勢・中勢・松阪地区(要相談)
27	「造形あそび」による造形描画指導法	だれもが楽しめる描画造形技法とその指導法。	保育園・幼稚園・小学校の指導者(幼児など参加可能)	田中厚好	4月～12月(1～3月でも可能)	県内全域(北勢・中勢地区中心)
28	子どもの心、現代の子育てのあり方について	子育てで迷っている大人(先生や保護者)への一助となればと思っています。スクールカウンセラーの経験を生かし。	保護者、幼・小・中・高の教員、保育士	橋本景子	土・日・他は要相談	県内全域
29	環境教育(誰が取り組める実践的環境教育)	身近な環境問題(大気汚染・水質汚染・ごみ問題)について講義または簡単な野外実験を行う。	保育園・幼稚園・小学校・中学校	朴 恵淑	要相談	中勢・松阪地区
30	NPO活動(身近な環境活動)	地域での環境問題への取組のできるNPO活動のあり方について講義。	一般市民・大学生・高校生			
31	実践的国際交流(民間レベル)	国レベルではなく、民間レベルで可能な国際交流について一緒に考え、実践的な取組可能なことから始める。	小学校・中学校・高校・大学・一般市民			
32	保育実践研究	保育内容、保育指導(援助)のあり方検討。	幼稚園教諭、保育士	田口鉄久	要相談	県内全域
33	就学前教育・保育をめぐる課題	保・幼・小の連携、保護者・地域との連携などについて考える。	幼稚園教諭、保育士			
34	うたって・おどってあそぼう! 実技	楽しい保育、元気の出る保育、体を動かしたものを目的としたもの(パネルシアターなど)。	保育士、教諭、保護者(幼児)、保育者を目指す学生	浦中浩一	土・日(要相談)	特に指定なし
35	ふれあい遊び	体と体のふれ合いを通して、今しかできない音楽などを通してのふれあい遊び。	保育士、教諭、乳幼児(保護者も一緒に)			

研究員の活動紹介・新入会研究員の紹介

福西 朋子研究員(活動紹介)

昨年度は「0.1.2 歳児のための『子どもひろば』」の講師として主にふれあい歌あそびを担当いたしました。私自身子育て中ということもあり、毎回わが子連れて共に楽しい時間を過ごさせていただきました。また、年度最後のひろばに来ていただいたお母さんからは「次はいつしてもらえるのですか?」という嬉しい言葉もいただきました。安心して楽しく遊べる場として地域に根づいていってほしいと思います。

その他、今年度は夏に本センターの後援をいただき「親と子のための音楽あそびひろば」を客員研究員でもある浦中こういちさんや本学音楽講師の方と開催します。音楽の楽しさを親子のみなさんと味わえるような企画をしています。



安藤 はるみ客員研究員(新入会)

保育現場・子育ての中で体感した絵本の楽しさ喜びを、さらにより多くの方々と共感したい分かち合いたいと絵本の読み聞かせのグループで活動しています。今、この時代だからこそ、子育てにおける絵本の意味について考え、学び合い、実践していく人の輪が大切だと考えます。



望木 郁代研究員(新入会)

現在は、新生児の日内リズムの形成を研究しています。赤ちゃん研究は近年とても進んでおり、赤ちゃんのもつたくさんのすばらしい能力が分かってきています。日内リズムの形成は赤ちゃんが外界に適應する能力のひとつですが、データを見るたびにそのすばらしい力に驚嘆しています。赤ちゃんのもつ力はヒトの根底にある大切な力で、これらもこの分野の研究を進めていこうと思っています。



市田 敏之研究員(新入会)

4月より育児文化研究センター研究員に着任いたしました。

育児や子育ての重要性が従来以上に指摘されている近年の状況を鑑みる時、大学と地域との連携は有効な方策の一つではないかと考えております。

関係各位からのお力添えを賜りながらも、本センターの使命を果たすべく活動をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



橋本 景子客員研究員(新入会)

カウンセリングを始めて17年。小学生から大人(親子関係の中で子どもの立場として)まで、多くの子どもたちの声を聴いてきました。

いろんな問題・悩みを語る中で、いかに初期の親子関係が大切か見えてきます。一見、学校や職場の問題に見えても、その背景には遠い昔の子ども時代の問題が潜んでいるものです。実践や研究の中から、そんな大切な時期を乗り切る一助となることができれば大変嬉しいです。



センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学育児文化研究センター
住所 〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195
Tel (059)232-2310
Fax (059)232-6317
高田短期大学 内線 123 番
Mail ikubun@takada-jc.ac.jp



編集後記
総会の事業報告で改めてこの一年多くの事業を手がけてきたんだな、と実感した次第です。センターの活動をとおり、私たち研究員も視野が広がり、能力を開発されているような気がしています。
(M・K)